

【キャベツ（春収穫）】

①栽培こよみ

月 作型	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
4～5月穫り	△-----○	—————							
6～7月穫り	△-----○			—————					

△：播種 ○：定植 ■：収穫 ---：育苗期間 ———：本圃期間

②栽培のあらまし

（1）播種・育苗

育苗はパイプハウス等の施設内で、育苗方法はエアープルーニングとします。育苗トレイは200穴で、野菜用培土を使用します。トレイに培養土を入れ、約500mlを均一に灌水します。水が十分に浸透したら鎮圧、播種穴開けし、コート種子をセルの中心に1粒ずつ播種します。共土で均一に覆土し、底から水が滲み出してくる程度に灌水します。10日目頃（本葉展開期）から液肥を追肥します。灌水は噴霧灌水とし、ジョロ・蓮口の場合は目の細かいものを使用します。本葉3～4葉で定植適期となります。定植前の灌水は育苗床から搬出する前に十分行っておきます。

（2）施肥

定植の10日前に、石灰を含む改良資材とたい肥を全面に散布し、深耕します。基肥は全層施用し、定植直後から肥効を高めるため肥料を均一に散布します。追肥は4～5月穫りでは3月下旬に施用します。条間に溝を付け、追肥後中耕を兼ねて覆土します。収穫前に肥効低下した場合は、尿素を10aあたり20kgを畦肩に施用します。

肥料名	(水稲跡)					(野菜跡)				
	基肥	追肥	N	P	K	基肥	追肥	N	P	K
たい肥	2,000					2,000				
石灰質資材	160					160				
リン酸肥料	40			14.0		40			14	
緩効性高度化成	60	60	19.2	9.6	14.4	40		6.4	3.2	4.8
高度化成		60	9.0	9.0	9.0		60	9.0	9.0	9.0
有機質肥料	150	150	15.0	6.0	3.0	150		7.5	3.0	1.5
緩効性高度化成							60	9.6	6.0	8.4

（3）定植

畦幅は約125cmとし、水田転換圃場では高畦とします。条間は40cm、株間33cmの2条千鳥植え、栽植本数は10aあたり5,000株前後です。

(4) 定植後の管理

定植後速やかに灌水します。灌水幅が片側 3m・6m の灌水チューブを設置し、十分に根部まで水が浸透するまで灌水します。

機械移植の場合、移植時に少量灌水設置により灌水すれば活着は促進されます。

定植後の初期雑草の防除は、土壌処理剤を使用し定植前または定植後に処理します。中期雑草は茎葉処理剤の畦間処理か、追肥と兼ねて中耕除草します。

(5) 収穫調整

春キャベツは若穫り（八分結球程度）し、裂球の早い品種では収穫適期に注意します。

③病虫害防除

病害はべと病・菌核病の発生があり、薬剤の予防的な散布の他、被害植物を圃場外へ持ち出すことも重要です。害虫はコナガ・アオムシ・ヨトウムシ類が発生しますが、発生初期に効果的な防除を実施します。

④栽培上の留意点

- ・ 作型に合った品種を選定し、播種期を厳守します。
- ・ 3月下旬~4月上旬から生長が急激に進むので、肥料切れを起こさないようにします。
- ・ 病虫害防除は、効果的な方法で適期に実施します。

出典：「農業新技術百科」（2009年 兵庫県）

